夏秋イチゴ「信大ＢＳ８－９」

株式会社信州ＴＬＯ

一般的なイチゴの品種は、ハウス内で冬から春にかけて収穫されており、夏秋期（6～11 月）には生食イチゴを店頭で見かけることはほとんどありません。夏秋期のイチゴは、主にケーキ等に使用される業務用需要で、国内で約 5,000t と言われています。現状ではアメリカなどからの輸入品が大半を占めていますが、国産品に対するニーズは高く、夏季冷涼な地域ではその気候・立地条件を活かした夏秋イチゴの生産や品種改良が進んでいます。長野県内の夏秋イチゴは平成 13 年から本格的な栽培が始まり、平成 21 年には栽培面積 9.1ha、生産者 69 戸、生産量は約 230t となっています。

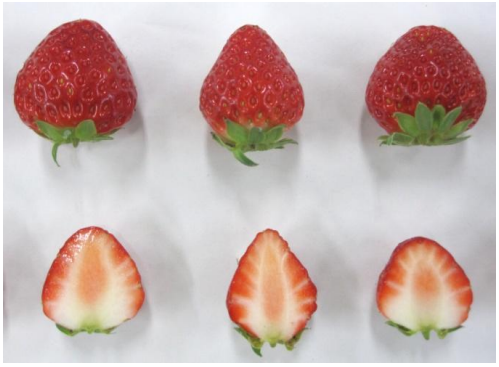
このような背景をもとに、信州大学農学部の大井美知男教授が 5 年かけて開発した夏秋イチゴ新品種「信大 BS8-9」は、夏秋イチゴとして優れた特徴があり、平成 21 年 10 月 27 日に信州大学が品種登録申請しました。

★生態特性：草勢が強く、果実も成り疲れがしにくい。また芯止まり（新芽が出てこない）や白ろう果（表面が赤く色づかない）などが発生しにくく、うどんこ病など病気にも強い。

★果実特性：高温期でも高糖度（平均糖度 Brix は 10.6）。果心まで赤いので、カットしての活用にも向く。比較的硬く、保管や輸送にも向く。

信州ＴＬＯが長野県と連携し、県内各栽培家への利用拡大を進め、平成 22 年 3 月の利用契約は、24 者、12,400 株。

平成 23 年には信大交配 8-9 の特性を熟知した、信州大学農学部大井研究室の OB である森本氏が配付用苗生産の安定化を図り 2 月現在の利用契約は、38 者、約 50,000 株となりました。



※本文中の内容は、当時のものです。現在とは異なる場合があります。

お問い合わせ先

一般社団法人信大 BS8-9 協議会

WEB サイト：https://fs.lck-cloud.com/u17229/